

第2期日高町創生総合戦略

日高町役場企画財政課

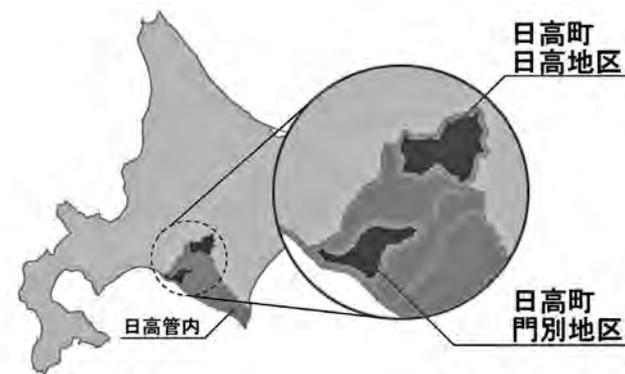
1 はじめに 日高町の概要

日高町は、2006年3月1日に「旧日高町」と「旧門別町」という隣接していない町が合併し、新しい日高町として誕生しました。

95%を森林で占める山と川の地区「日高地区」とサラブレッドの馬産地で雄大な太平洋に面している海沿いの地区「門別地区」で構成されています。

日高管内の西部に位置し、沙流川の源流から下流にかけて、日高山脈がそびえています。日高地区は日高山脈のふもとに広がる森と清流の空間が広がり寒暖の差が大きく、冬期には1m前後の積雪がみられ、門別地区は牧場と太平洋が広がり積雪も少なく比較的温暖な気候となっています。

日高地区、門別地区の両地区間に平取町を挟んだ「飛び地」になっていて、その距離は約65kmもあり、日本一の飛び地となっています。



日高地区は、基幹産業が観光業で、登山者に人気の日高山脈、溪流釣りやラフティングなどを堪能できる沙流川、森林浴に最適な緑の森、オートキャンプ場とアウトドアが充実していて、日高管内唯一の本格的なスキー場である「日高国際スキー場」もあり、シーズンを通して多くの観光客が訪れています。

門別地区は軽種馬産業、農業、水産業の3つが基幹産業を担っています。軽種馬産業では、国内の約80%が日高管内で生産され、日高町の占める割合は約18%です。門別競馬場で行われるホッカイドウ競馬は、インターネットの普及等により売り上げも向上し、近年は軽種馬生産頭数も増加傾向にあります。



農業では沙流川流域に豊潤で雄大な自然をベースとした大地で、トマトや軟白長ネギ、アスパラガス、ほうれん草、ピーマンなどを主要産品として生産し、市場に安定供給されています。

水産業ではサケや日高昆布を筆頭に、カレイやホッケ、タコなどが水揚げされています。また、サケの種苗生産やホッキ稚貝の放流、昆布礁しょうの設営といった水産資源の維持・管理型の漁業が推進され、地域の特産品であるししゃもについても、ふ化放流事業を実施し沙流川の遡上の増進に取り組んでいます。



日高沙流川オートキャンプ場

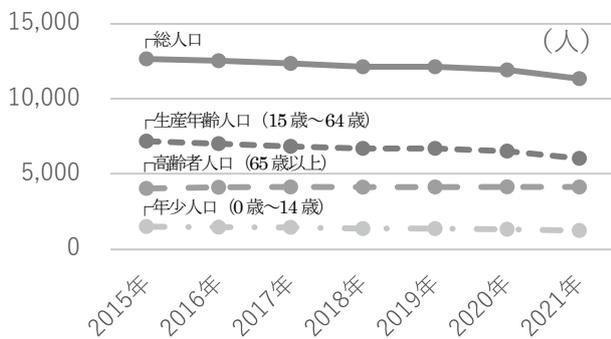


日高国際スキー場

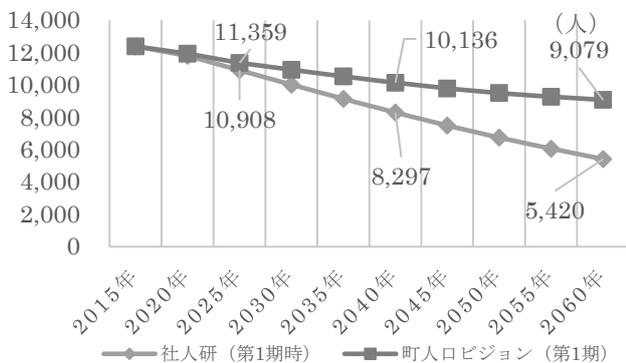
2 日高町人口の推移

総人口は、減少傾向であり、1985年には18,267人でしたが、2005年には15,000人を下回り、2021年には11,340人となっています。

年齢3区分別人口割合の状況では、比較的生産年齢人口の減少が大きくなっています。合計特殊出生率については、2013年～5年間の平均で1.61と全国や北海道と比べ高い水準となっていますが、出生者数は今後も減少傾向が続くと見込まれます。社会増減については1999年以降、常に転出者数が転入者数を上回っている状態が続いています。

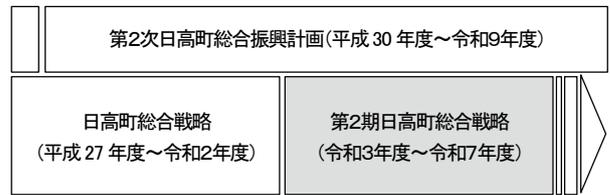


国立社会保障人口問題研究所の推計によると2015年と2040年では、20歳から39歳人口が61.3%減となっています。子育て世代の人口減少は、年少人口の減少につながり、将来的な生産年齢人口の減少にもつながることになり、地域経済の消費低迷、労働力不足など様々な分野に影響を及ぼすこととなります。高齢者人口の割合が年々増加していることから、医療・介護の面での労働力不足や町財政の負担の増加も懸念されます。



3 日高町創生総合戦略の位置付け

町の政策の基本的な考え方や方向性を明らかにした「第2次日高町総合振興計画」に基づいて実施される各事業のうち、国が策定した「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標や5つの政策原則等を基に、取り組むべき施策をまとめ、「日高町人口ビジョン」において提示する日高町の将来展望を踏まえ、人口減少を抑えるために行う施策に関する基本的方向性や具体的な施策をまとめたものです。



4 基本目標と具体的な施策

【基本目標1】 まちの強みを雇用の場づくりにつなげる

地域の人口確保と地域の活力と持続の可能性につなげるため、産業の振興や雇用の創出を目指します。基幹産業や新たな産業を支える後継者や担い手の確保・育成を図り、第1次産業の振興と、門別競馬場や地域資源を活かした観光事業を強化し、雇用の創出につなげます。

(1) 第1次産業の振興

主要な産業である第1次産業の経営安定化を図り、生産性を向上させ、若い世代を中心に新規就業者の増加を図ります。特に農業においては、新規就農者に対して財政的な支援を行い、事業の安定化につなげます。また、林業については、民有林の森林整備に対し支援するとともに、町有林の育成を継続します。漁業については、稚魚の放流事業等に対し、経費の一部を補助します。

(2) 特産品の推奨と販路拡大

豊かな地域資源を有効に活用し、加工から流通・販売まで取り組み、経営の多角化を進め、町の活性化につなげます。日高町地場産品推奨品認定事業を継続し、全国的な販路開拓を推進します。

(3) 観光産業振興

ホッカイドウ競馬について、全国でのファン層拡大に向け、各種事業を実施します。また、門別競馬場を核とした観光ルートを開発し、国外に向けてもPRします。豊かな自然環境を活かした体験型観光を強化し、地域の活性化を図ります。

(4) 若者の雇用機会の拡大

地元で就職する若者及び企業を支援することで、将来を担う若者の地元への定着につなげます。

(5) 企業誘致と事業の創造支援

雇用の場創出のため、企業者等に創業や事業規模拡大に係る費用を支援します。また、企業誘致による関係人口の増加につなげます。

【基本目標2】 海があり山を抱くまちで、子どもを産み・育てたいひとを増やす

本町の合計特殊出生率は、北海道平均と比較して高い水準となっていますが、出生者数は年々減少し、自然減が続いている状況です。また、生産年齢人口の割合も年々減少しています。地域の活性化のためには、若い世代が町内で結婚し、将来を担う子どもを安心して産み、育てることができる環境をつくり、人口減少を抑制する必要があります。

(1) 子育て支援の充実

妊娠前・妊娠期・出産・子育て期へと切れ目なく相談・経済支援を行い、安心して産み育てられる環境をつくりまします。

(2) 教育環境の充実

子どもたちが毎日元気に成長していくために、教育環境を充実させ、学力・学習意欲の向上につなげまします。

【基本目標3】 このまちに誇りをもってアクティブに住み続けたいと思える生活を支える

山・川・海と豊かな自然環境を有する本町に誇りを持ち住み続けたいと思えるよう、生涯にわたり安心していきいきと生活できる環境づくりが必要となります。そのため、生活環境や福祉の充実、新たなまちづくりに向けた取り組みを推進します。

また、感染症を契機とした地方移住への関心の高まりを地方への大きなひとの流れにつなげ、交流人口とともに関係人口の創出・拡大に向けた事業を積極的にを行い、地域づくりの担い手不足の解消につなげます。

(1) 住みよい環境づくり

計画的な町道の整備や町営バスの運行による交通手段の確保、防災情報の発信など、だれもが住みよいまちづくりを目指します。

(2) 交流・関係人口の創出・拡大

町の魅力を知ってもらうきっかけづくりの一つとして、ふるさと納税を通じた情報発信を行います。また、近隣町との共同による事業展開により交流・関係人口の拡大につなげます。

(3) 若者が集うまちづくり

将来の担い手となる若者の人口維持につなげるため、地域学習により本町の魅力・特色を学び、地域への愛着を育むことにより町内高校への進学率を向上させ、高校存続につなげます。

(4) 福祉の充実

高齢者や障がいのある方などが、その人らしく安心していきいきとした生活を送ることができる環境づくりのため介護予防事業などを実施します。

(5) 移住・定住施策の推進

都市部から地方への人の流れをつくる事業を検討します。また、近年増加している外国人の方が安心して住み続けられるまちづくりを目指し、定住につなげます。

5 取組事例**【ホッカイドウ競馬売上増進対策事業】**

全国でのファン層拡大に向け、開幕に併せた各種PR事業を一般社団法人北海道軽種馬振興公社と協体制を築き、連携を図ります。

門別競馬場で日高町協賛レースに合わせ、「日高町DAY」や「日高町WEEK」といった特産品の無料配布及び販売イベント実施の他、近隣町のむかわ町・平

取町と連携し、広域観光事業として各町の観光PRや特産品販売等のイベントを実施してきました。

今後、門別競馬場を核とした観光ルートの開発や、各種観光施設との連携事業を計画し、観光振興を推進します。



【ICT機器整備・更新事業】

個別最適な学びを構築し、自ら課題を見つけ自力解決する能力を育み、プログラミング教育を充実させ、論理的思考力を^{つちか}培うため、令和2年度に町内全ての小中学校にタブレット端末を導入しました。

タブレット端末を自宅へ持ち帰り、家庭の協力を得ながら学習が行えるよう取り組むとともに、今後はAIドリルをはじめとする様々な学習機能を有効活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図り、学習意欲の向上につなげます。



【地域循環型バス運行事業】

路線バス、町営バス、無料送迎バスが重複して運行していることで運行費用が拡大しており、持続可能な地域交通体系を再構築するため、令和6年5月に「日高町地域公共交通計画」を策定しました。

本計画に基づき、複数のバス路線が重複して運行している状況に対し、輸送手段の一元化を目指すとともに、利用ニーズが多い区域運行によるドアtoドア送迎に対応したAIデマンド交通の導入を実施していきます。また、利用者の拡大と公共交通を身近に感じることができる環境を整えるために、路線バスやデマンド

交通の乗り方教室や、スマートフォンによる予約方法をわかりやすく伝えていくためのスマホ教室を定期的に開催します。



バス乗り方教室



スマホ教室

6 おわりに

急速に進むデジタル化や、多様化する行政課題に迅速かつ的確に対応するため、行政組織の機能には、より効率性や機動性が求められています。また、少子高齢化・人口減少の流れの中で、新たに生じる行政課題や多様化・高度化する住民ニーズに 대응していくために、より効果的なICTの活用が必要となっています。

このことに対応するために、デジタル技術を活用し、さらなる業務効率化や行政サービスの向上、日高町が抱える様々な課題の解決のためには、組織内の各部署が主体的にDXに取り組むことに加え、全体最適の観点から組織横断的に取り組むため、令和5年7月に「日高町DX推進計画」を策定し、推進する事業の具体的な内容の「日高町DX実行計画」を令和6年1月に策定しました。

国の総合戦略、北海道創生総合戦略及び日高町DX推進計画の内容を踏まえ、地域ビジョンを再構築し、日高町DX実行計画の施策を日高町創生総合戦略の一部として取り扱うこととするよう、「第2期日高町創生総合戦略」を抜本的に改訂し、「日高町デジタル田園都市国家構想総合戦略」の策定へ向け取り組んでいます。

DXの推進を通して、福祉、環境、防災、教育等、あらゆる分野の施策の維持・充実を図り、また、さらなる行政サービスの向上や町や町民が抱える課題を解決することで、将来にわたって持続可能なまちであり続けることを目指し、実現に向けて具体的な取り組みを推進していきます。